【KSKQ】 2020年3月号 No.206

あいえるらくがき帳

一九九一年九月三日　第三種郵便物承認　毎月（1・2・3・4・5・6・7・8の日）発行

人気の歌プログラム

もくじ

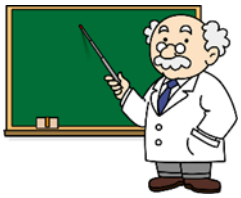
○まいど博士の知っておきたい差別解消法　2-3P
○季節を感じることを大切に…　4P
○みんなの“好き”をプログラムに…　5P
○書物で読み解くあいえる史　6-7P
○ヘルパーのあれこれ　～介助者の意識～　8P
○ほんわか　～世話人座談会～　10-12P
○あいえる入居者インタビュー　13P

あいえる協会のホームページ

http://aiel.or.jp/

あいえる協会	検索

こちらの QR コードからも
アクセスできます



まいど博士の知っておきたい差別解消法

～障害者差別解消法　不当な差別にあたる事例④～

前回はお店の販売やサービスの場面、公共機関での差別事例と合理的配慮について紹介したが、今回は福祉サービスや医療での場面での差別事例の紹介していこうかの。

まだまだいろんな場面での差別事例があるんですね。

そうなんじゃ。まずは福祉サービスの中での差別事例を紹介していくぞ。

- 車いすを利用していることを理由に事業所利用を断る。
- 視覚障がいの方に対して、印字だけされた説明文書を渡す。
- 事業所にホームヘルパーの派遣依頼があったときに、発達障がいを理由に断る。

どんな「合理的配慮」が求められるのですか？

うむうむ。では合理的配慮の事例を紹介するぞ。

- 車いす利用者が移動しやすいように段差にスロープを用意する。また机を車いすが入れる高さにしたり、作業がしやすいように手の届く範囲に置く。
- 説明文書の点字や拡大文字を準備する、文字を読み上げるなど本人に合った方法で説明する。
- 説明がわからないときに提示するカードを用意したり、写真・イラストの使用など視覚的にわかりやすくする。本人をよく知る支援者と本人が理解しやすくなる工夫をする。

などあげられるのじゃ。

また、もちろん医療の場面でも同じように「差別事例」はあるのじゃ
・人や設備の体制が整っていて対応が可能なのに、障がいを理由に診療、入院、調剤を拒否する。
・身体障がい者補助犬の同伴を拒否する。
・保護者や支援者、介助者の同伴を診療、治療、調剤の条件にする。
・パニックを起こすことがある障がいの方に対し、対応の工夫をすることなく、次回以降の診療を断る。などがあるのじゃ。

そのなかで「合理的配慮」は
・受付では筆談やゆっくりと大きな声で話す。
・肢体不自由の方、視覚障がいの方には検診ルートなど職員が付きそう。
・診療の際、わかりやすく丁寧に説明し、不安を与えないようにする。
など考えられる。

人によって障がいの特性や求める内容は様々ですね。
事業所側は、障がいのある人が求めている内容を聞いて、何ができるのか考える必要がありますね。

障がいのある人からは求めている内容を具体的に伝えていくことも必要じゃ。建設的な対話を行うためには、それぞれが持っている情報（障がいの状態や提供できるサービス内容等）や意見を相手に示すことが重要じゃ。

今回の４号にわたって障がい者差別や合理的配慮を学ぶことができました。障がい者の差別がない配慮のある街にするには、相手の意見を否定するのではなく、お互いに理解し合えるように話し合い、考えていくことが大切だと思いました。

ウィル

☆季節を感じることを大切に…☆

２０２０年、新年を迎え、ウィルの活動もより一層パワーアップしたものになればと考えています。活動を通して季節を感じる取り組みを行っています。

①新年会

新年を祝うイベントで、おせちもいいけど…カレーもね☆でみんなでカレーを食べる年もあったり利用者と大いにカラオケ大会で盛り上がるなどウィルでのおなじみのイベントとなっています！！

②豆まき大会

節分の由来を皆さんに説明し、そのあとは、紙を丸めて豆に見立てて鬼退治！！

遊びの要素を取り入れながら、紙を丸める、投げる動作は、利用者にとって身体を大きく動かすのに有効で、普段体操をすると少し恥ずかしくて動かすことができない方も楽しみながら身体を動かしていました。

③バレンタイン大作戦♡

法人各部署の皆さんに感謝の気持ちを込めて。

２月１４日にチョコを配っています。

感謝の気持ちは口にして言いにくいけども…思いを伝えることは大切だよー！という思いも含めて取り組んでいます。

この取り組みが、普段の生活の中で大切な人に伝えられたら…最高ですよね☆もちろん、調理実習はみんなだーいすきなので協力しながらみんなで作成しています。

春に花見、夏はBBQ！など楽しく、わくわくする取り組みを行っています☆

★☆★ライフネットワーク★☆★
♬みんなの“好き”をプログラムに…♬

前回も紹介したとおり、毎年ライフ・ネットワークでは
法人内の忘年会でハンドベルや合唱を披露しています。

一昨年の忘年会で改めて気づいたこと、それは…
ライフ・ネットワークに通われているみなさんが
歌を歌うのが大好きだという事♬

ならば、みんなが好きな“歌”をプログラムに取り入れたい！
ではどんなプログラムにしたらみんなが参加できるだろう？
歌が苦手な人は？役割、仕事が欲しい人は？
幅広い年齢層の方々が一緒に歌える曲って
どうやって選べるだろう？などなど･･･

「好きな歌も歌いたい！」「歌詞カードを改良してほしい！！」
通所者のみなさんの声を聞き取りながら試行錯誤すること一年。

“歌プログラム”は「次はいつ歌プロあるん～？？」
「もっとやりたいわ～」と声が上がるほど
定着したプログラムの一つになりました(*^-^*)

これからも、皆さんの“楽しい！！”“あれ楽しかったからまたやりたい！！”
に寄り添った“みんなで過ごす楽しい時間”を大切にしていきたいと思います♬
全力の歌声をいつか皆様にもお届けしたいです･･･♬

書物で読み解くあいえる史

『施設の障害者・外出サービスネットワーク』から始まった当法人も、昨年で３０周年を迎えました。長い歴史の中で、この『あいえるらくがき帳』の前身である『施設らくがき帳』をはじめ、様々な形で情報を発信してきました。それらを掘り起こすことで、当時の障害者や障害者運動について、少しでも伝えられたらと思います。

今回は、おおさか・行動する障害者応援センターの機関誌『すたこらさん(1989年10月号)』に当事者スタッフの岸田が寄稿した、第１回目の施設外出企画の報告を紹介します。

「施設の障害者外出サービスネットワーク」始まる！

岸田　美智子

九月三日大雨警報が出るドシャぶりの雨の中、「施設の障害者外出サービスネットワーク」（略ネットワーク）としては第一回目の外出日を、迎えました。

この日の参加者は、介助者と障害者を合わせて三十人でしたが、施設障害者の人達は、本当に個人個人が自分で決めた行きたい所へ出掛ける事が出来たようです。

その行き先は一人一人勿論違うし、たまたまこの日は施設から家に帰っていて家から出掛けられた障害者の方もおられました。その目的は買い物や食事、映画などで「もう、この施設へ来て六年になるけど、個人的にボランティアの方とこんなふうに出掛けるなんて初めての体験です。」と、ちょっと興奮されたようで、ズッーとボランティアの方に話掛けられ、ボランティアの方を疲れさせてしまった障害者の方もおられました。

この日の行動は、ネットワークの活動をよく知っていたり、車椅子や障害者の介助に慣れている人をリーダーにきめて、一つのグループが二人～六人ぐらいで、六つのグループに別れて行いました。

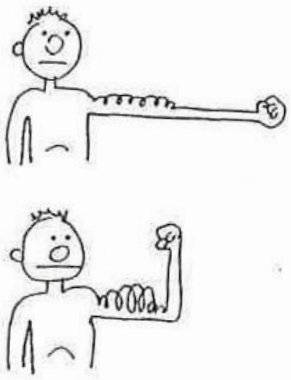
五つの施設から障害者の参加があり、それぞれのグループでは、交流も出来なかなか楽しかったようでした。

私のグループハ、K施設へ迎えにいくと、外出が大雨のため突然中止になってしまい、しまい、逆に私達がゆっくり施設見学させていただきました。その見学を終えて駅につくと、なんと線路が冠水し列車が運休していて、いつになったら復旧するかわからないという悲惨な状況でした。

「こんな時、リーダーはどうするの？」といわれて困ってしまったリーダーの私は、「とにかく皆でお昼ご飯を食べながら考えよう」ヨといってしまい、みんなでご飯を食べながら「K施設に泊めてもらうかな…」などという話も出ていました。でも何故か？うまく食べ終わったころにキッチリ開通していたのでした。（尚外出が中止になったのは、私達のグループのK施設だけでした）

この日の外出行動で初めて車椅子を押した方、初めて障害者の介助を体験された方がたくさんおられました。

この方々は、ネットワークの介助者募集の新聞記事をみてとか、ネットワークのビラなどを見て連絡して下さった方々です。



この人達の初体験なども詳しく十月八日の反省会の時にお聞きしてみたいと思っています　施設障害者の親などからも「私も忙しいし年を取ってきたりしますので、この子のことをよろしくお願いします。」と言われたり「私も会員になりたい！」と施設障害者からはどんどん期待されて来ています。

山奥の施設のため車で迎えに行かなければならない所も多く、崖崩れなどの心配もしましたが、事故もなく第一回目の外出日を終えることができました。まだまだ動き出したばかりの施設障害者外出介助サービス事業ですが、一人でも多くの施設障害者が施設という「箱」から自由に外へ出られるようにガンバリたいとおもっていますので、みなさんからのご支援やご協力をお願いします。

具体的には下記のような応援者・介助者を求めています。

★施設は辺びな所にある事が多いため、車での介助を、

★車椅子等の施設障害者の外出介助をやってくださる方

★車の運転ができる方

★交通費がかさむため、この事業への資金的な援助を

★この事業の事務局を手伝ってくださる方

★その他（障害者施設などに興味のある方やこの事業に賛同して下さる方ｅｔｃ）

◆介助経験のない方にも、障害者との接し方・介助方法等は個別にアドバイスさせていただきます。

（尚、飲食費のみ各自の負担でお願いします。）

連絡先

[redacted]

「施設の障害者外出サービスネットワーク」

[redacted]

★電話連絡がつきやすい時間は

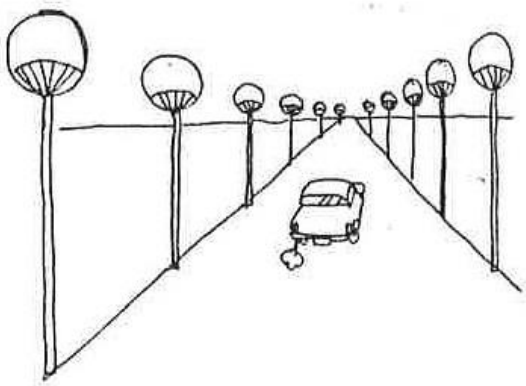
曜日・時間　月・水・金の

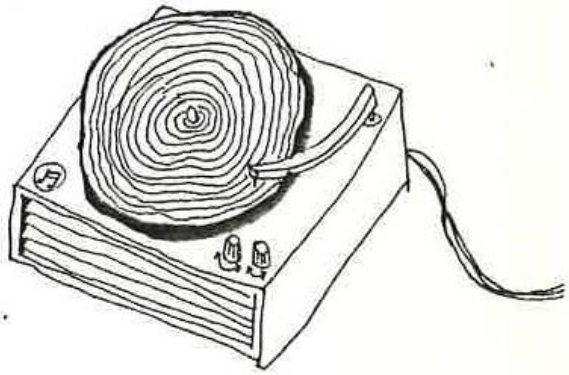
午後一時三十分～五時頃

担　当　古田、岸田、[redacted]

☆留守の時は留守番電話に、お名前・御連絡先などを吹き込んでおいてください。尚、お手紙でも結構です。

こちらから連絡させていただきます。





筆者(岸田)から

３０年前の外出サービスの第一回目のこの報告を読んで、健全者職員第一号の池田さんにボランティアでこの活動に加わってもらう事が出来ました。このように、人との出会いが現在のあいえる協会を奇跡的に作りあげてきたのです。そんな歴史を、この掲載シリーズでゆっくり振り返ってみたいと思いました。次回をお楽しみに・・・。